デイトレードセミナー
（米国株編）

2025年6月25日

講　師
株式会社インベストラスト代表
国際テクニカルアナリスト連盟
国際検定テクニカルアナリスト
福　永　博　之

おことわり

本冊子に記載されている事項は証券投資に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
本冊子の解説は一般的な解釈・通説を紹介したもので、その内容通りに投資したとしても投資収益があげられるとは限りません。
最終的な投資決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
なお、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。
本冊子に掲載されている内容の著作権は、原則として弊社に帰属します。著作権法により、弊社に無断で転用、複製、転売等することはできません。但し、個別に条件が提示されている場合は、当該条件が優先するものとします。

講師プロフィール

- 株式会社インベストラスト代表取締役　福永 博之
- 国際テクニカルアナリスト連盟　国際検定テクニカルアナリスト
- 日本テクニカルアナリスト協会・前副理事長（2016年6月～2020年6月）
- 勧角証券(現みずほ証券)を経て、DLJdirectSFG証券(現楽天証券)に入社。同社経済研究所チーフストラテジストに就任、現在、投資教育サイト「itrust(アイトラスト)byインベストラスト」を運営し、セミナー講師を務めるほか、毎日マーケットコメントを発信。
- また、大前研一氏のビジネス・ブレイクスルー大学資産形成力養成講座の講師を務める。
- テレビ、ラジオでは、日経ＣＮＢＣ「昼エクスプレス」、テレビ東京「モーニングサテライト」、ＴｏｋｙｏＭＸ「東京マーケットワイド」、ラジオ日経「スマートトレーダーPLUS」「マーケットプレス」などの番組にレギュラー出演中。
- また、四季報オンラインやダイヤモンドZAIなどのマネー雑誌にも連載を持つ。
- 著書では、「テクニカル分析　最強の組み合わせ術」2018年6月発売（日本経済新聞出版社）、「ど素人が読める株価チャートの本」（翔泳社）、がそれぞれ台湾で翻訳され出版される。また「テクニカル分析　最強の組み合わせ術」が台湾で増刷されるなど大好評。「実力をつける信用取引　売買戦略からリスク管理まで」（パンローリング）、「新取引ルール対応　信用取引の基本と儲け方ズバリ！」（すばる舎）、「FX一目均衡表ベーシックマスターブック」（ダイヤモンド社）など多数。
- テクニカル指標の特許「注意喚起シグナル」を取得、投資＆ビジネスメモツールi-tool（アイツール）を提供中。
- アイトラストホームページ：https://www.itrust.co.jp
- 注意喚起シグナルを搭載したアイチャートは、株式会社ストックウエザーが提供中。
- アイチャートホームページ：https://www.stockweather.net/　（2024年10月17日現在）

目　次

- なぜデイトレードを行うのか？
- デイトレードとは何か？
- デイトーレド銘柄の選び方
- デイトレードのポイント
  - トレンド重視
  - 売買タイミングの計り方
- 具体的な情報の取り方と活用方法について
- 売買シナリオの考え方
- トレードテクニック
  - 決算速報にどう対応するか!?

なぜデイトレードを行うのか

- 理　由
  - 株式投資の三大リスクを保有時間だけに限定するため
- 三大リスクとは
  - 価格変動リスク　＝保有したあとに値下りすること
  - 流動性リスク　　＝売買したいときにできないこと
  - 倒産リスク　　＝黒字倒産などの予期せぬこと
- デイトレのメリット
  - 上記三大リスクを保有時間だけに限定できる
- 信用取引を活用すると…
  - 売りからも取引できる（収益機会が増える）
  - 保証金の範囲内で何度でも売買できる
  - レバレッジを効かせれば、少額からでも取引可
- デイトレのデメリット
  - 小さな利益を積み上げる必要がある（損小利大が理想！！）
  - 取引コストが増える可能性がある
  - レバレッジを効かせた場合、損失も大きくなる可能性がある

デイトレードとはなにか？

- 定　義
  - 日中に売買を完結させ、精算する取引（その日のうちに必ず決済する！！）
  - その日のうちに損益を確定させ、翌日にポジションを持ち越さない
- 例（信用取引の場合）
  - 買い（エントリー）⇒売り（イグジット）①
  - 売り（エントリー）⇒買い（イグジット）②
- 売買の流れ
  - 買いが主体の例：①⇒②⇒①⇒①⇒①
  - 売りが主体の例：②⇒②⇒①⇒②⇒①
- 信用取引とは
  - 証券会社から買付代金や株券を借りて行う取引
  - 保証金が必要
  - レバレッジを効かせて取引をおこなうことができる（約2倍）

デイトレ銘柄の選び方

- 銘柄選びのポイント
  - ボラティリティが高い
    （値幅を取ることができるが損失も大きくなる可能性あり）
  - 流動性が高い
    （希望価格や数量で売買できる可能性が高い）
  - 買いからも売りからも売買できる
    （上昇相場でも下落相場でも収益機会が得られる）
  - 日中のトレンドがはっきりしていれば尚可
    （売りと買いどちらでエントリーするかや売買タイミングが計りやすい）

デイトレードのポイント

- トレンドを重視する
  - 日足で上昇トレンドの銘柄を買いでエントリー
  - 日足で下降トレンドの銘柄を売りでエントリー
- 流動性がある銘柄かどうかを確認する
  - 流動性が低い銘柄は売買しない
  - 流動性が低い銘柄を売買する場合は、売買単位を最小限にする
- 空売りが可能か確認する
  - 空売りができる銘柄の方が流動性が高く、下げた後の反発力が高いことが多い
- 買いか売りのエントリーを行う前にトレンドを判断する
  - エントリーの方向と逆にトレンドが発生した場合は早めにロスカットする
- 分足を活用する
  - 3分～5分足　（時間が長すぎると売買タイミングが遅れる）

トレンドを重視する（判断方法）

- エントリーの材料
  - テクニカル分析を活用する
  - 日足のトレンドを重視し、エントリーのタイミングは分足を活用
- トレンド判断に活用するテクニカル指標
  - 移動平均線（主に5日移動平均線の向きを重視、中長期も同じ向きなら尚可）
  - 5日移動平均線の向きが上向き（買いでエントリー）
  - 5日移動平均線の向きが下向き（売りでエントリー）
- 売買タイミングに活用するテクニカル指標
  - MACD、ストキャスティクス
- エントリーのタイミング
  - 上昇トレンドの買いシグナルで買いエントリー
  - 下降トレンドの売りシグナルで売りエントリー

売買タイミングの計り方（具体例）

- 日足のトレンドを確認
  - 5日移動平均線が上向き＆株価が移動平均線より上（上昇トレンド）
  - 5日移動平均線が下向き＆株価が移動平均線より下（下降トレンド）

- 分足の活用
  - オシレーター系のテクニカル指標でエントリー
  - オシレーター系のテクニカル指標でイグジット

- 日足が上昇トレンド
  - オシレーター系（分足）の買いシグナルで買いエントリー

- 日足が下降トレンド
  - オシレーター系（分足）の売りシグナルで売りエントリー

具体的な情報の取り方と活用方法について

- チャート画面の活用
  - トレンドを確認しながら発注（信用新規）
    - 上昇トレンド＝買いエントリー、下降トレンド＝売りエントリー
- ランキング情報の活用
  - ランキングの値動きから発注
    - 日中出来高急増、売買代金急増、寄付きからの値上り、値下り率など…
- ニュース画面の活用
  - ニュースの内容から発注
    - 買い材料、売り材料などを判断…

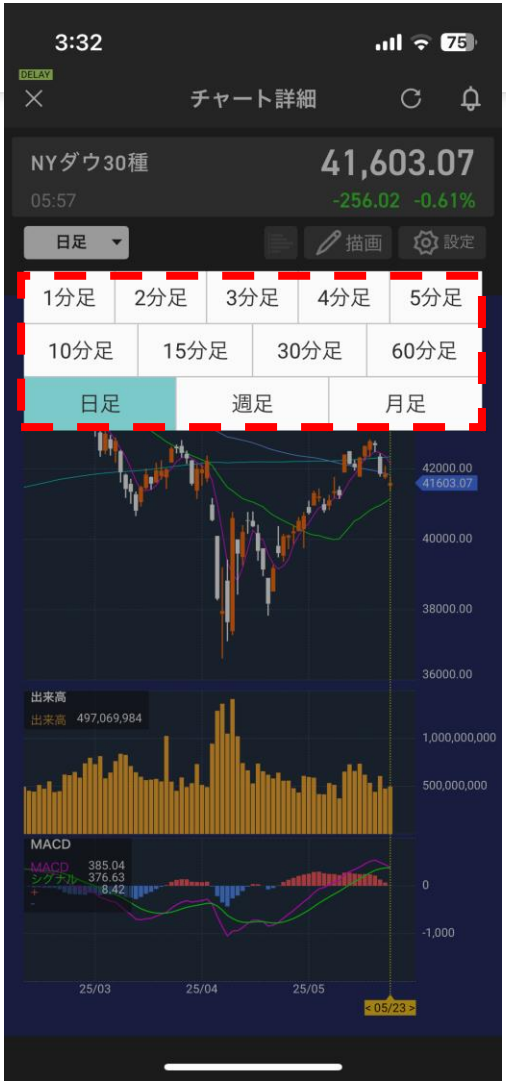
売買シナリオの考え方（例）

- 市場に関連するニュースを活用する
  - グッドニュース（法人税引き下げ、信用取引の証拠金率引き下げetc）
  - バッドニュース（法人税引き上げ、信用取引の証拠金率引き上げetc）

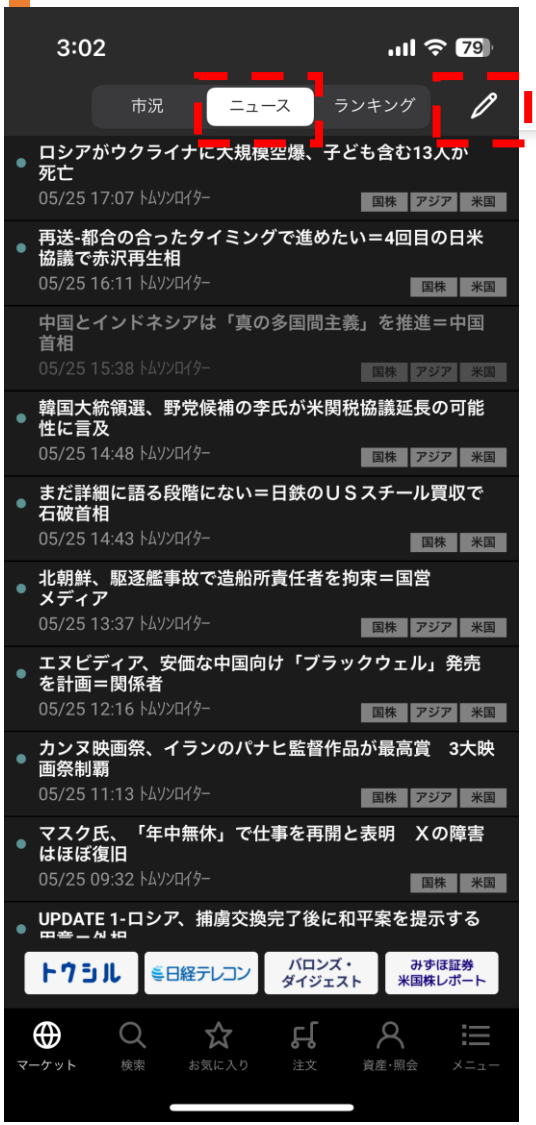
- イベントを活用する
  - 経済指標（市場予想を上回る＝買い、市場予想を下回る＝売り、逆の場合も…）
  - 金融政策などの発表（利上げ＝売り、利下げ＝買い）

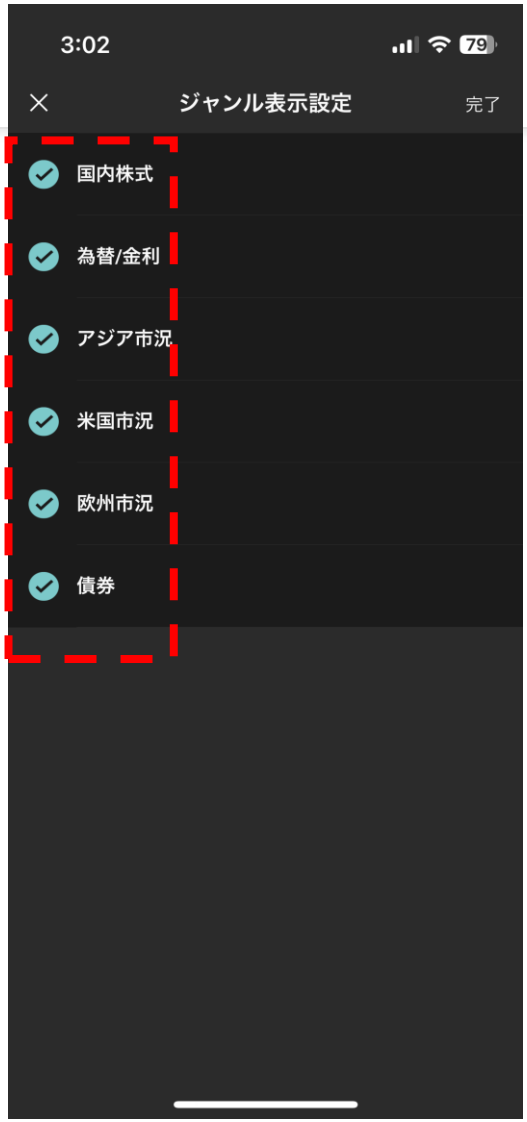
- 個別企業のプレスリリース
  - 新製品の発表（対抗商品がない、需要増が見込まれるなど…）
  - 月次報告など（売上高、客単価など…）
  - 決算発表（事前予想を上回る＝買い、同下回る＝売り）

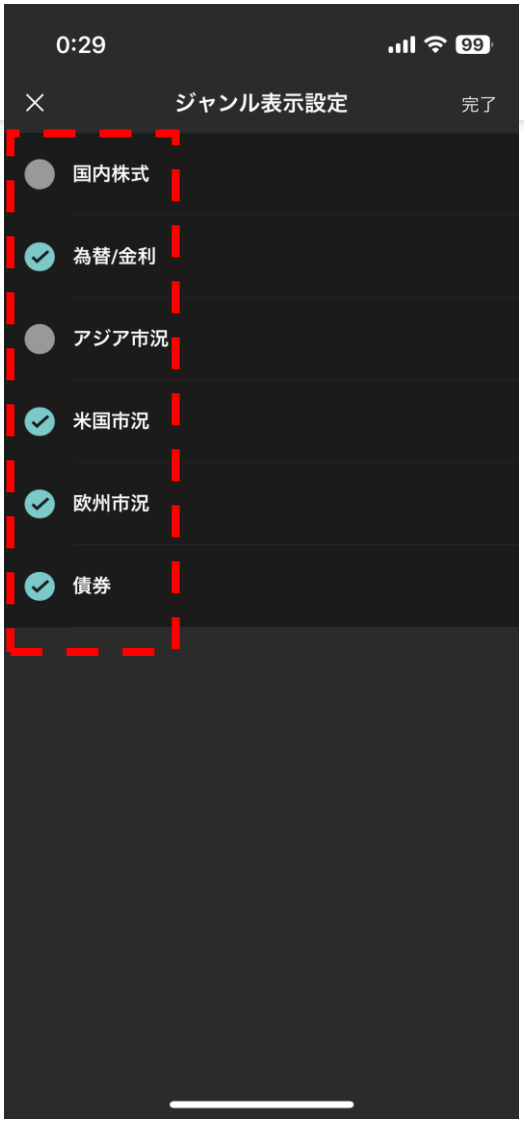
iSPEEDを使った取引開始前準備①



iSPEEDを使った取引開始前準備②

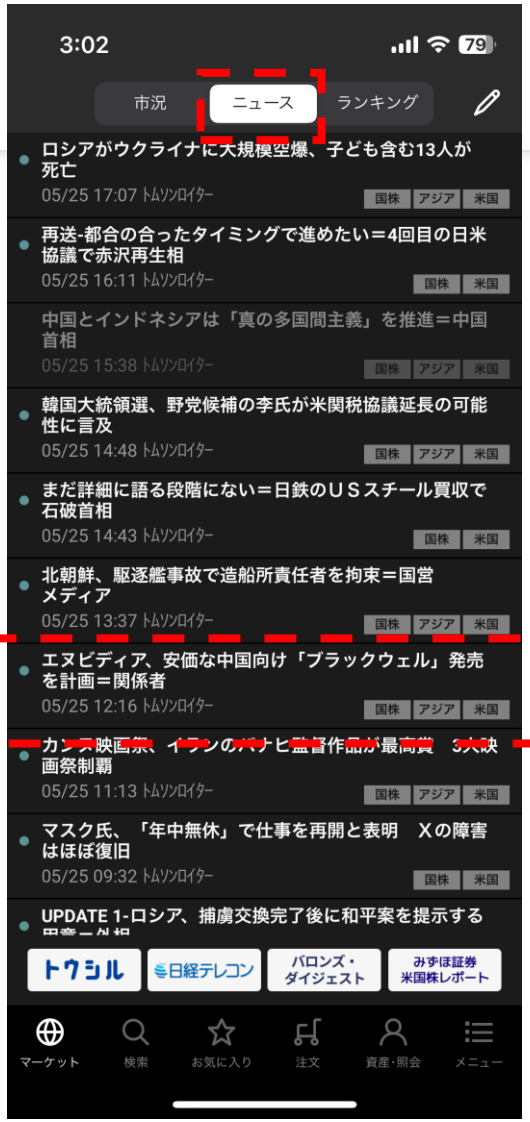


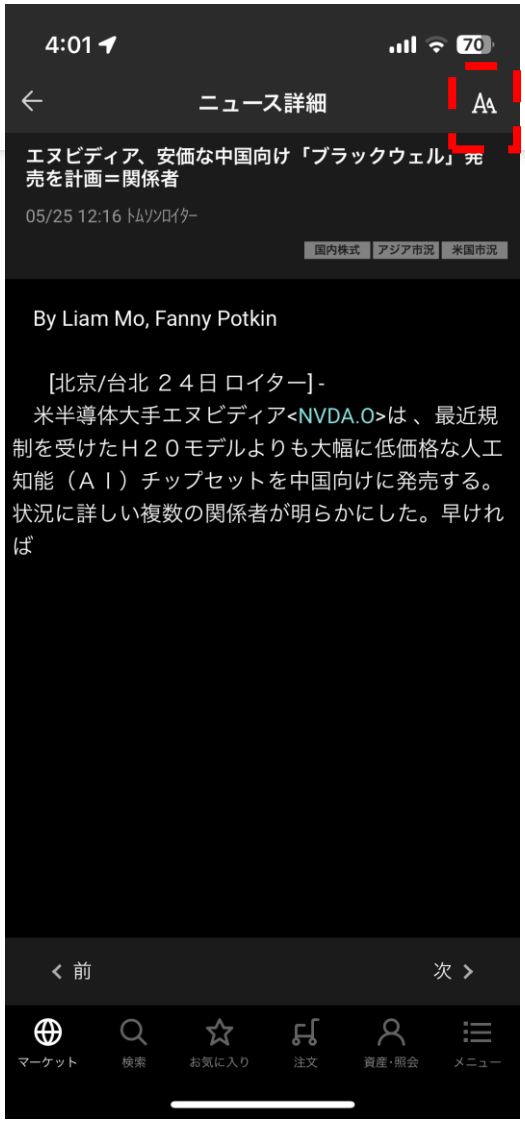




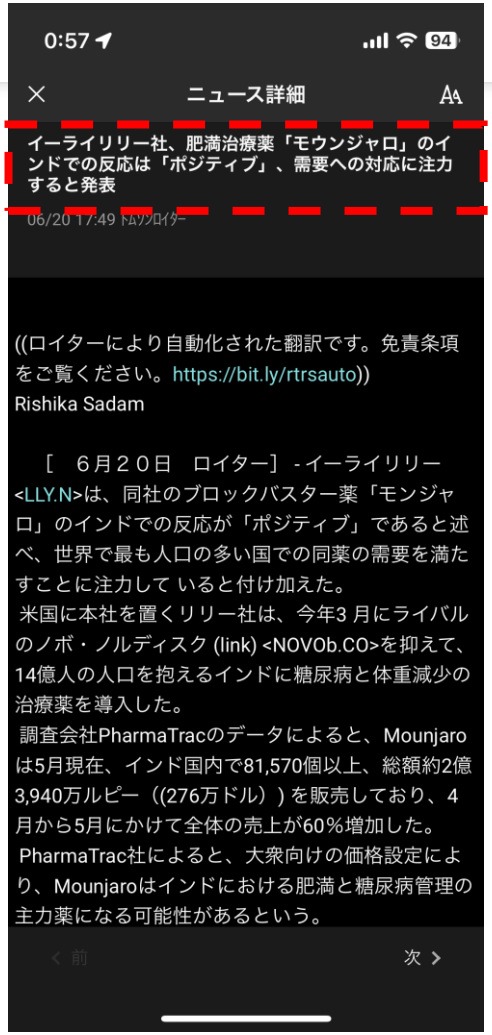
取引開始後や前日のランキングを確認

ニュース画面の情報を確認①





ランキングとニュース画面の情報を確認①



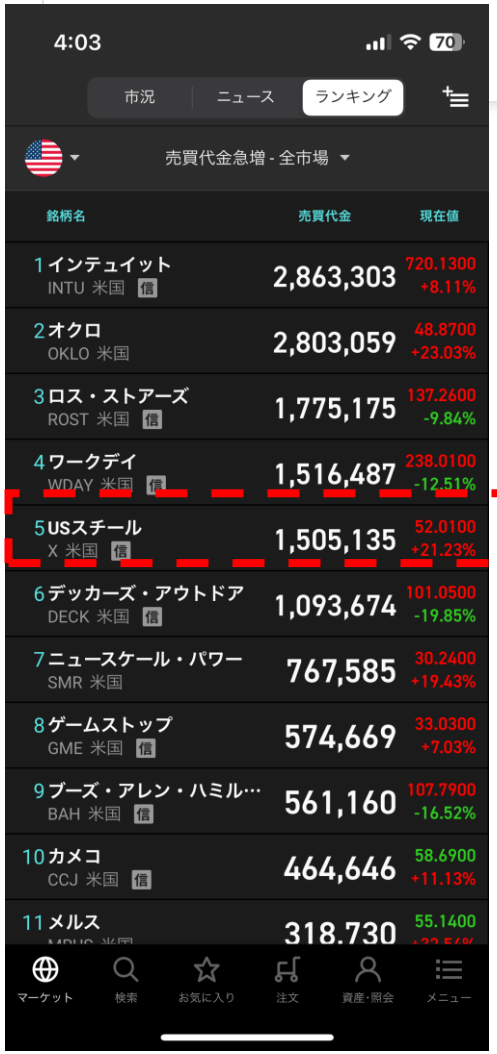
ランキングとニュース画面の情報を確認②

拡大画像

取引前気配の強い銘柄の売買に注意

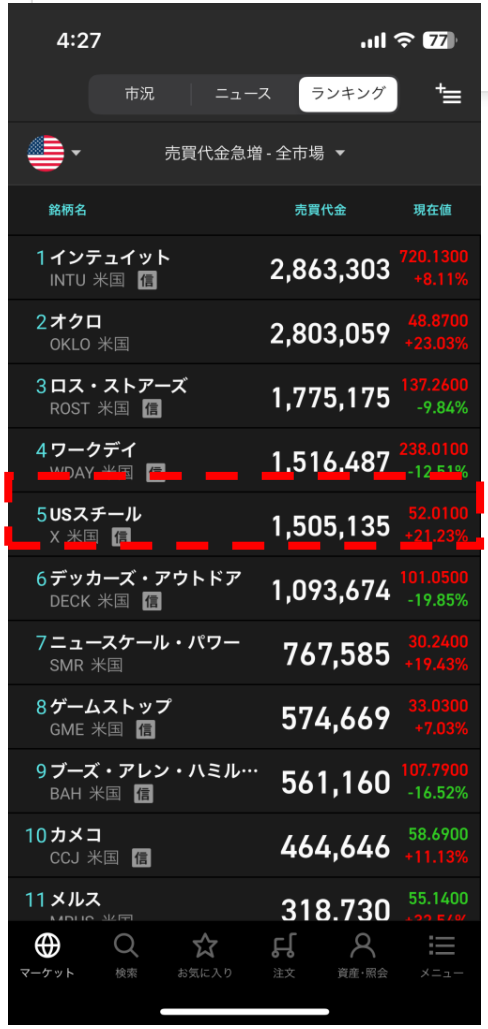
- 取引前気配の強い銘柄とは
  - 前営業日比で株価が大きく乖離している
- 事例
  - 決算発表など（予想を下回る、同上回るなど）
- ポイント
  - 前営業日の終値と乖離して高く取引が始まると、急落することがある
- 対応策
  - 事前に日足や週足のトレンドをチェック
- エントリーについて
  - 日足や週足のトレンドをチェックし、事前に買いか売りかを判断する
- ポジションについて
  - 大きくし過ぎない
- 具体例
  - 急騰や急落に対応するためにボリンジャーバンドも併用する

ランキングからの注文例①

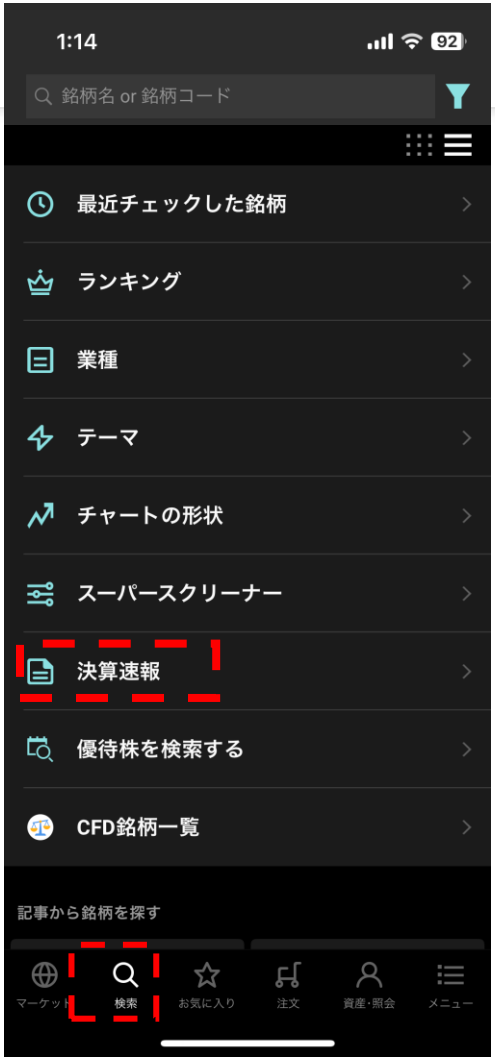


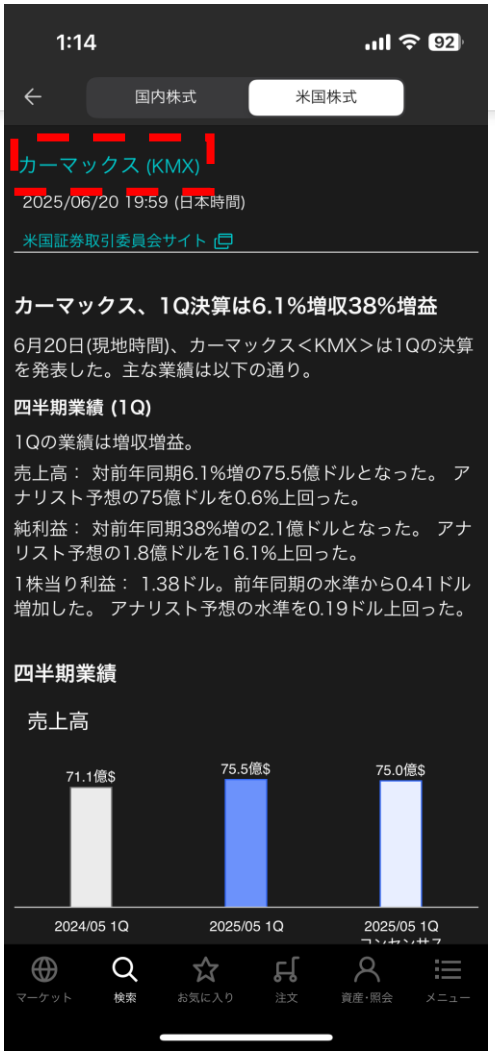
ランキングからの注文例②

ランキングからの注文例③



決算速報画面＆デイトレード①





決算速報画面＆デイトレード②

ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なることがございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいますようお願いいたします。

加入協会
日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
商号等
楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

外国株式のリスクと費用について

■外国株式　海外ETF／ETN／REIT

【外国株式等の取引にかかるリスク】
外国株式等は、株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、為替相場の変動等により損失（為替差損）が生じるおそれがあります。上場投資信託（ETF）は連動対象となっている指数や指標等の変動等、上場投資証券（ETN）は連動対象となっている指数や指標等の変動等や発行体となる金融機関の信用力悪化等、上場不動産投資信託証券（REIT）は運用不動産の価格や収益力の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

●レバレッジ型、インバース型ＥＴＦ及びＥＴＮのお取引にあたっての留意点
　上場有価証券等のうち、レバレッジ型、インバース型のETF及びETN（※）のお取引にあたっては、以下の点にご留意ください。
・ レバレッジ型、インバース型のETF及びETNの価額の上昇率・下落率は、2営業日以上の期間の場合、同期間の原指数の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じたものとは通常一致せず、それが長期にわたり継続することにより、期待した投資成果が得られないおそれがあります。
・ 上記の理由から、レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、中長期間的な投資の目的に適合しない場合があります。
・ レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、投資対象物や投資手法により銘柄固有のリスクが存在する場合があります。詳しくは別途銘柄ごとに作成された資料等でご確認いただく、またはコールセンターにてお尋ねください。
※「上場有価証券等」には、特定の指標（以下、「原指数」といいます。）の日々の上昇率・下落率に連動し1日に一度価額が算出される上場投資信託（以下「ETF」といいます。）及び指数連動証券（以下、「ETN」といいます。）が含まれ、ETF及びETNの中には、原指数の日々の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じて算出された数値を対象指数とするものがあります。このうち、倍率が＋（プラス）１を超えるものを「レバレッジ型」といい、－（マイナス）のもの（マイナス１倍以内のものを含みます）を「インバース型」といいます。

外国株式のリスクと費用について

【米国株式の信用取引にかかるリスク】
米国株式信用取引の対象となっている株式等の株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。米国株式信用取引は差し入れた委託保証金を上回る金額の取引をおこなうことができるため、大きな損失が発生する可能性があります。その損失額は差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。また、米国株式信用取引は外貨建てで行う取引であることから、米国株式信用取引による損益は外貨で発生します。そのため、お客様の指示により外貨を円貨に交換する際の為替相場の状況によって為替差損が生じるおそれがあります。

【外国株式等の取引にかかる費用】
〔現物取引〕

分類	取引手数料
米国株式	約定代金の0.495%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：22米ドル（税込）
中国株式	約定代金の0.275%（税込） ・最低手数料：550円（税込） ・上限手数料：5,500円（税込）
アセアン株式	約定代金の1.10%（税込） ・最低手数料：550円（税込） ・手数料上限なし

※当社が別途指定する銘柄の買付手数料は無料です。
※米国株式の売却時は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。
※中国株式・アセアン株式につきましては、カスタマーサービスセンターのオペレーター取次ぎの場合、通常の取引手数料に2,200円（税込）が追加されます。

外国株式のリスクと費用について

〔米国株式信用取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

取引手数料
約定代金の0.33%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：16.5米ドル（税込）

米国株大口優遇の判定条件を達成すると、以下の優遇手数料が適用されます。米国株大口優遇は一度条件を達成すると、3ヶ月間適用になります。詳しくは当社ウェブページをご参照ください。

〔米国株式信用取引（米国株大口優遇）〕
約定金額にかかわらず取引手数料は0米ドルです。

※当社が別途指定する銘柄の新規買建または買返済時の取引手数料は無料です。
※売却時（信用取引の場合、新規売建/売返済時）は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。

●米国株式信用取引には、上記の売買手数料の他にも各種費用がかかります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

●米国株式信用取引をおこなうには、委託保証金の差し入れが必要です。最低委託保証金は当社が指定する30万円相当額、新規建て時に最低必要な委託保証金率は50%、委託保証金最低維持率（追証ライン）が30%です。委託保証金の保証金率が30%未満となった場合、不足額を所定の時限までに当社に差し入れていただき、委託保証金へ振替えていただくか、建玉を決済していただく必要があります。

外国株式のリスクと費用について

【米国貸株サービスにかかるリスクおよび費用】

●リスクについて

米国貸株サービスの利用に当社とお客様が締結する契約は「消費貸借契約」となります。株券等を貸付いただくにあたり、楽天証券よりお客様へ担保の提供はなされません（無担保取引）。

●投資者保護基金の対象とはなりません

貸付いただいた株券等は、証券会社が自社の資産とお客様の資産を区別して管理する分別保管および投資者保護基金による保護の対象とはなりません。

●手数料等諸費用について

お客様は、株券等を貸付いただくにあたり、取引手数料等の費用をお支払いいただく必要はありません。

●配当金等、株主の権利・義務について

貸借期間中、株券等は楽天証券名義又は第三者名義等になっています。そのため、貸借期間中に権利確定日が到来した場合の配当金については、発行会社より配当の支払いがあった後所定の期日に、所得税相当額を差し引いた配当金相当額が楽天証券からお客様へ支払われます。また、株式分割等コーポレートアクションが発生した場合（整数倍の株式分割を除く）、自動的にお客様の口座に対象銘柄を返却することで、お客様は、株主の権利を獲得します。

●配当金の情報について

米国貸株サービスにおける配当金の情報は、S&Pグローバル社より提供されるデータを基にしており、原則として毎営業日の更新となります。配当金は各企業の判断で廃止・変更になる場合がありますので、必ず当該企業のホームページ等で内容をご確認ください。

●大量保有報告の提出について

貸株対象銘柄について、楽天証券およびまたはそのグループ会社等の保有が基準以上となった際にSEC（Securities and Exchange Commission：米国証券取引委員会）に報告書を提出する必要が生じます。その場合において、お客様の氏名、取引株数、契約の種類（株券消費貸借契約である旨）等を報告書に記載させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

●税制について

株券貸借取引で支払われる貸借料及び貸借期間中に権利確定日が到来した場合の配当金相当額は、お客様が個人の場合、一般に雑所得又は事業所得として、総合課税の対象となります。なお、配当金相当額は、配当所得そのものではないため、配当控除は受けられません。また、配当金相当額は外国税額控除の対象外です。また、お客様が法人の場合、一般に法人税に係る所得の計算上、益金の額に算入されます。税制は、お客様によりお取り扱いが異なる場合がありますので、詳しくは、税務署又は税理士等の専門家にご確認ください。